

## 2 中高連携英語力向上 第2年次の歩み

### (1) 美濃加茂市立東中学校における実践

#### <授業実践>

##### ① 授業実践に向けての構え

- ・評価規準を明確にした授業実践と高校との授業交流を進め、中学校における授業改善を図る。特に基礎的・基本的内容の定着を図るために、単位時間における学習活動を精選する。
- ・実践的なコミュニケーション能力の育成を目指して、コミュニケーションを図るための必然性のある場面設定を工夫する。
- ・中高の生徒の実態について共通理解を深め、「聞くこと」、「話すこと」を中心とした系統的な指導の在り方を探る。

##### ② 第1回授業交流研究会

【日時】 平成16年7月8日(木)

###### 【公開授業】

- ・単元名 Speaking Plus 1 電話の会話 ― 申し出る、伝言をたのむ
- ・授業学校・学級 美濃加茂市立東中学校 3年1組
- ・主な提案内容

- ① 評価規準をもとに基礎的・基本的な内容を洗い出し、その定着を図る指導過程の工夫
- ② 生徒が意欲的に取り組む言語活動の工夫

###### 【授業研究会】

- ・本時で身に付けさせたい表現を絞り込むとともに、その文化的な背景や文法的な内容も押さえてあり、定着を図るための工夫がなされた指導展開であった。さらに効果的に学習を進めるために、Listening 場面で教科書を見ないで音声に集中させて聴かせるとよかった。
- ・意欲をより喚起するとともに生きた表現力を育成するために、ALTの活用をもっと進める。生徒同士のコミュニケーション活動だけでなくALTとの活動場面の設定や、インプットを増加するために多様な表現をALTから引き出す工夫やその与え方をさらに検討していく。
- ・ペア活動に意欲的に取り組む姿が見られた。付けたい力の定着や意欲の向上のために、ペアや小集団での学習の活用は有効であった。このことを次回の授業交流の視点とし、実践を進めていくこととした。

##### ③ 第2回授業交流研究会

【日時】 平成16年11月9日(火)

###### 【公開授業】

- ・単元名 Unit 6 Listening Plus 2 「外国からの友達」
- ・授業学校・学級 美濃加茂市立東中学校 1年5組
- ・主な提案内容

- ① Listening 教材において、生徒が主体的に聞く活動に取り組むための学習活動の工夫
- ② 効果的に定着を図るための一斉的な指導の中での少人数学習の設定やペア活動の工夫

###### 【授業研究会】

- ・話される内容を聞き取り理解することだけを目的とするのではなく、理解したことを仲間に伝えるために聞き取ることや理解したことを伝えるという必然のある学習活動の工夫が見られた。「聞く・話す」の結びつきが明確になった授業であった。
- ・聞くことや話すことが苦手な生徒にいかに関心を持って学習活動に参加させるかという点に不安があったが、生徒は自分の使える表現で意欲的に仲間に伝えようと学習する姿が見られた。少人



数学習にしたことで一人一人の活動の場がより多く確保されたこと、ペア学習で何度も練習して「できそうだ」という見通しがもてたことがこの意欲につながったと考えられる。

### <グローバル・スタンダードによる英語力分析調査>

◎ケンブリッジ英検ヤングラーナーズ受検 8月12日(木)実施

【受検者数】 スターターズ 23名、ムーバーズ 32名、フライヤーズ 11名 合計 66名

- ・各コースの技能別結果を世界平均と比較したとき、どの項目においても今後さらに指導を充実し力を伸ばす必要があると考える。
- ・領域で考えると、スターターズ、ムーバーズでは顕著な差は見られないが、フライヤーズにおいては Listening の結果が世界基準と比べ課題であると言える。この結果から native speaker が話す natural speed の英語を聞く力が十分に育っていないと言える。実践的な聞き取る力を付けていくためには、まとまった英文を聞き取る活動を継続的に位置付けるなど授業改善を図っていきたい。

### <学習環境の充実>

◎ native speaker の派遣

【講師】 John Golden 【対象生徒】 2・3年生 選択英語クラス

・ native speaker を招き、2・3年生の選択英語の授業において T T で授業を実施した。生きた英語に触れ、日頃の学習の成果として「英語が使えた」「理解できた」という体験をすることを目的として、クリスマスやお正月を中心に講師の出身国(アメリカ)と日本の過ごし方の違いについて説明していただいた。その後、英語を使ったコミュニケーションを図る活動としてゲームを行った。生で聞く外国文化の話に興味深く聞く生徒の姿が見られた。



### <成果と課題>

#### ①成果

- ・2年間の中学校及び高校の英語の授業交流を通して、目指す方向や日ごろの努力点、それぞれが抱える問題点などを共有することができた。特に今年度は小集団活動の在り方に焦点を当てて授業交流をしたことで、お互いの実践から具体的な事例の交流をすることができた。また、実践的な聞く・話す場を増やす学習活動の工夫、All English を目標に Classroom English を多用して授業を進めることに努力できた。
- ・グローバルスタンダードによる英語力分析調査を通して、生徒自身が自分の英語力を把握することで課題を知り、今後の英語学習に対する意欲をさらに高めることにつながった。また、世界平均と比較して生徒がもつ英語力を客観的にとらえ、「聞くこと」を中心に今後の授業の在り方について見直すことができた。
- ・ native speaker との交流を通して、外国の様子を直接聞く機会をもち、外国の生活の様子等について関心を高めることができた。外国の文化を知ることは、生徒にとって日本の文化を見つめ直す機会になるとともに、今後英語を学んで広く外国へと歩み出していきたいという気持ちを高めることにもつながっていると考えられる。

#### ②課題

- ・実践的コミュニケーション能力の育成を目指す上で生徒の実態把握をもとに、4領域の身に付けさせたい力を明確にして3年間で系統的に指導を継続的に行うことで力を付けていくよう努力する。また、さらに生徒が意欲的に学習に取り組むことができるよう学習活動や指導過程の工夫を進めていきたい。